

要項別冊

K S L S A R S - C o v 2

(新型コロナウイルス感染症)

対策プロトコル

1. 考え方

JFAガイドラインに基づき、関西サッカーリーグとして、感染拡大のリスクを最大限に排除し、チーム、選手、指導者、審判、運営スタッフ、それらの方のご家族等が安心して安全に活動できる環境を提供する。

2. 対策組織

リーグ感染対策責任者	関西サッカーリーグ運営委員長
チーム感染対策責任者	関西サッカーリーグチーム実行委員等
試合運営感染対策責任者	当該試合ホームチーム実行委員

3. 責任者の役割

リーグ感染対策責任者

全体統括、リーグ継続等の判断、上部団体エスカレーション等

チーム感染対策責任者

JFAガイドラインに基づく試合開催日までの関係者、選手の健康管理

試合運営感染対策責任者

JFAガイドラインに基づく試合会場における感染予防対策

- ・ チーム感染対策責任者と連携した関係者、選手の健康状態の確認（JFAチェックリストによる）
- ・ マッチコミッショナー、審判団、審判インストラクター、プレス（表現関係者）の健康状態の確認（JFAチェックリスト等による）についてマッチコミッショナーと連携し実施する。

4. 試合会場における感染防止策

チーム感染対策責任者及び試合運営感染対策責任者は基本的にJFAガイドラインに準じて実施することとする。

〈配備品〉

- ・ アルコール消毒液（チームロッカー、審判控室、運営本部）
- ・ 非接触型体温計（運営本部）

〈試合運営感染対策責任者・チーム感染対策責任者確認事項〉

（1） 諸室

運営諸室において以下の対応を行なうこと

- ・全てのドア及び窓を開け、三つの密が発生する環境を阻止し、ドアノブを介した接触感染を防ぐ
- ・ドリンクを冷やすためにバケツなどでの漬け込みは使用しない。
- ・座席を設置する際には前後左右1～2m（1.8m以上が望ましい）間隔をあげ、お互い
が正面に座らないよう配慮する。

- ・喫煙所は設けない。

(2) 手洗い場所・トイレ

リーグ関係者、参加チーム選手・スタッフなどはこまめに手洗いを行うこと。

(3) ロッカールーム

ロッカールームは三つの密が揃うため、感染リスクが比較的高いと考えられます。運営責任者チームはロッカールームについて以下に留意すること。

- ・広さにはゆとりを持たせ、選手同士が密にならないようにする。
- ・ゆとりを持たせることが難しい場合は、更衣のローテーションを組む等工夫する。
- ・選手はマスクを着用し、会話を最小限に留める。
- ・更衣室は更衣のみに使用し、更衣終了後直ちに退室すること。
- ・選手がシャワーを使用する場合は交代で使用し、密集は避ける。

(4) 審判控室

運営責任者チームは審判控室について、審判団と連携し以下の準備を実施すること。

- ・広さにはゆとりを持たせ、審判員同士が密にならないようにする。ゆとりを持たせることが難しい場合は、外部にテントなどを設置する措置を講じる。

(5) ベンチ

ベンチでは間隔を空けて座れるよう工夫して椅子を設置すること。

長椅子などの場合には、ソーシャルディスタンシングに留意をした人数分の椅子を用意すること。

(6) 来場者・観客対応

来場者・観客に関しては会場責任チームもしくはホームチームにおいて、体温計測地点や手指消毒地点などを施設側、行政側（必要な場合）と必ず協議した上で講じること。

以下項目に対してホームチーム感染対策責任者は管理すること。

注意しても改善されない場合は施設からの退場などの措置をとること。なお、下記対策が実施できない場合は観客入場の制限（無観客含む）を実施すること。

- ・体調の悪い人の入場はご遠慮いただく（体温測定により37.5℃を超過した場合など）
- ・来場者にはマスクの着用を要請、促す
- ・大声での声援や大旗を使うなどの応援は行なわない（ベンチ外選手の応援も同様）
- ・会場での応援は間隔を保ち、ハイタッチ、抱擁、肩を組むなどの行為は控える

・喫煙所は設けない

※注意点

①なお、施設側や施設を所有する行政などとの間の連携を密接におこない、観客入場の際の上限値や入場方法、注意点などについて決定し、可能な限り混乱を避けるために事前公表に努められたい。その場合に「無観客」と決定がなされた場合については、事前の広報を当事者間だけではなく、リーグ側にも通知し、周知徹底を行われることが望ましい。

②無観客試合となった場合、選手、事前の登録有無を問わずチェックリストの提出があったスタッフ、プレス（表現関係者）以外の会場への入場についてはご遠慮いただく。

また、この点についてのコントロールについてはホームチーム側のチーム感染対策責任者の指導のもとでおこなう。

③リーグにおいても「検温地点」や観客導線などについて明示できるサイン類を準備し、各チームへ配布。有効活用をおこない、どの会場においても観客に分かりやすい情報提供に努める。また、各種対策アプリなどの広報周知についても掲示物などで対応する。

④施設によっては、サーモグラフィの無償貸与なども実施しているため、自前のみならずこういったリソースも活用し、会場内が安心して観戦できる環境づくりに努める。

⑤スタジアムで発生した観客のゴミなどについては持ち帰りを促すよう、周知徹底を図る。また、ゴミ処理について、事前に施設側とも協議をおこなうよう努める。

(7) マッチコーディネーションミーティング (MCM) における伝達事項

- ・試合前と後のセレモニーはなしとする
- ・試合後の相手チームベンチへの挨拶のみ実行する
- ・円陣はしない
- ・倒れた選手に手を貸さない
- ・得点時にハイタッチ・抱擁を行わない。エアータッチは可能
- ・ピッチ内でも咳エチケットを守り、つばを吐く、手鼻をかむなどの行為は行わない
- ・口に含んだ水を吐かない
- ・ボトルを共有しない
- ・水、氷を溜めたクーラーボックスを共有しない
- ・タオルを共有しない
- ・ピッチ上での会話は互いの距離を配慮すること
- ・ベンチ内ではソーシャルディスタンスを保ち、スタッフ・選手は出来るだけマスクを着用するなお、ただし、夏場等は熱中症対策のため、その限りではない
- ・MCMについては、マッチコミッショナー、チーム責任者各1名、審判団代表1名、

会場責任者1名で実施する

- ・ 飲水タイムの回数などの適切な運用を事前に協議する

(8) ゴミの処理

ゴミについてはチームの責任で必ず持ち帰ること

5. 試合後の対応

新型コロナウイルスの感染が発生した場合に備え、個人情報の取り扱いに十分に注意しながら、リーグ当日に参加選手・スタッフ・運営関係者の健康管理表は試合運営感染対策責任者において保管し、施設当該保健所など当局への速やかな情報提供に努めること。なお保存期間は試合終了後1か月とする。